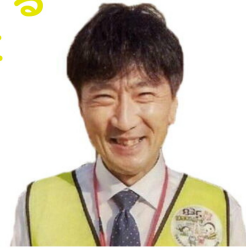


夢と可能性を大切に つるせ台小学校に

富士見市立
つるせ台小学校 校長

松本 正彦 さん



昨年の4月につるせ台小学校に着任しました校長の松本正彦です。いつも地域の皆様には子どもたちがお世話になり、ありがとうございます。

令和4年は、教育活動に制限が多い1年でした。そんな中でも教職員一同、できるだけ工夫してよりよい指導を目指して取り組んできました。令和5年も引き続き油断できない状況は続くと思いますがここまでの経験をもとに「学びを止めない」を合言葉に教育活動を推進していきたいと思ひます。

コロナが収束したら、何をすると、ある子どもに尋ねたところ、「友だちとマスクなしで楽しくおしゃべりたい」「一緒に会話をしながら給食が食べたい」などと答えてくれました。子どもたちは、「当たり前のことを当たり前でできること」を望んでいます。そんな当たり前の生活に近づけるために細心の注意を払いながら、子どもたちのためにチャレンジしていきたいと思ひます。



つるせ台小の子どもたちには、夢と可能性を大切に成長してほしいと思ひます。夢は、学校生活へのモチベーションを高めます。また、子どもたちの可能性は無限大です。可能性を最大限に伸ばす指導をしたいと思ひます。そして、笑顔あふれる活力のある学校を築くために、地域の皆様と二人三脚で一步一步確実に前進していきたいと思ひます。

今年は、「当たり前の教育」を目指してみんなで楽しく学校経営を進めていきたいです。



今年の抱負



今年は卯年です。うさぎは穏やかで温厚なことから「家内安全」と、その飛び姿で「飛躍」「向上」を象徴すると親しまれてきました。また十干十二支では、癸卯で「冬の門が開き、飛び出る」という意味があり、これまでの努力が花開き、実り始める年だそうです。コロナ禍に負けずに、良い年になるといいですね。今回は4人の方に抱負を語ってもらいました。



普段の何気ない 生活に感謝

大下 清美 さん (鶴瀬西3)



昨年は大変な出来事がたくさんあった。何ととってもロシアのウクライナ侵攻だ。毎日のように、まるで映画のワンシーンのような戦場の映像が送られてくる。私はそれを暖かい部屋で、時には家族と食卓を囲みながら、時にはおしゃべりをしながら見ている。あまりの違いに、これは現実に起こっていることなのかと不思議な気がする。戦場の人々の苦悩や哀しみは理解しがたい状況だ。でも、これだけはよくわかる。戦火の中の人々は、私が守られていると思ひこんでいた一番大切な命の危機を日々感じながら生活していること、失われていくたくさんの命を目の当たりにし、その哀しみを背負っていること、そして日常の生活が一転しよう元には戻れないだろうということ。



考えさせられた。そして平和であること、何よりもこの毎日の生活が続いていることがどんなにありがたいことかと実感した。私の日常の不満や憤りなど、小さなことだと感じられた。

これからも平和であることに感謝していこう。そして少しでも早く、この戦火が収まることを願ひながら、普段のなにげない生活が送れることに心から感謝していこう。私にも何かできることを見つければとも思ひました。

若い世代に 向き合う年に

池嶋 敏行 さん (関沢2)



昨年、介護保険者証が届き、お前はもうお年寄りの仲間入りしたんだからちゃんと自覚しなさいよ、と言われた気がした。言われるまでもなく体力視力歯力記憶力の衰えは顕著で、数年前と明らかに違う自分がある。同世代と会えば、年金は減るばかりだねえ。今ある貯金であと何年暮らせるかねえ。介護施設に入らず自宅でいつまで頑張れるかねえ。と不安は尽きず愚痴ばかりだ。

だが待てよ。不安なのは老人だけじゃない。若い世代の不安は、非婚や少子化という現象として表れているのではないか。私たちはなんだかんだ言っても、それなりに何とかやれて来れたじゃないか。でも、これからの若い世代の暮らしを考えると、かなり厳しい時間が続くような気がしてならない。私たち世代が解決してこなかった将来の年金問題・生活に関わる社会制度改善・明治からさして変わらぬ教育理念改革等を放棄して、老化からくる不安にとらわれていていいのか。我々世代のみに目を向けた主張ばかりでは、若者に申し訳ない。

新年に若い世代からの責任を問う声に向き合う覚悟を持つことを抱負としたい。そして、助け合えればとも思ひます。



紙芝居で地域の方々と 笑い楽しさの共有を

鶴瀬西交流センター
紙芝居ボランティア 代表

村岡 佳寿子 さん (関沢3)



紙芝居講座に参加した仲間で立ち上げたボランティア活動も、お陰様で10年を迎えます。児童館や保育所、高齢者施設などさまざまな団体にご依頼いただきましたが、コロナ禍で全ての活動が中止になり、定例会をすることも出来ない日々が続きました。次第にメンバーの士気も下がってしまい、ボランティア活動の意義を見失う時期もありました。

その中で、まずは定例会の中でお互いに紙芝居を演じ合い、再開に向けて技術習得に力を入れることにしました。また、活動先がないなら作ろうと、西交流センターの公園側玄関前で「かみしばい広場」を開催することにしました。公園で遊んでいる子どもたちに拍子木をならして呼び込みをし、手遊びでお互いの心をほぐしてから紙芝居や大型絵本などを楽しみます。初めて会ったばかりでも、一緒に手をたたいたり、笑ったり出来るのはやはり紙芝居の魅力だと思ひます。

昨年は、児童館や保育所等での活動の再開や、高齢者施設の方々とリモートで紙芝居やクイズを楽しむ、「ピースフェスティバル」「鶴瀬西交流センターフェスティバル」に参加するなど、充実した1年を過ごすことができました。

今年の目標は、例年通りメンバーの健康・笑顔と活動の継続、そして以前に開催していた紙芝居講師をお迎えしての「紙芝居講座」の再開です。開催の直前に中止になってしまいましたが、テーマはズバリ「お家で楽しむ紙芝居」でした。紙芝居は観るのも楽しいですが、演じることもとても楽しいので、ご家庭で演じ合いながら楽しんでほしいと企画した経緯があります。開催が実現した際には是非ご参加下さい。また、紙芝居実演のご依頼や、私たちと一緒に活動して下さる方がいらっしゃいましたら、鶴瀬西交流センター事務室までお問い合わせ下さい。お待ちしております。



ピースフェスティバル
2021の様子